



復刊第125号
題字 吉岡弥生

巻頭言

会長 山崎 倫子

あけましておめでとございます。皆様にはご健勝に新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。今年もまたよりよい年でありませう心からお祈り申し上げます。

月日のたつのが年々早くなつていくように感じられるこの頃、この一年をふり返り、役員各位及び会員皆様のご協力とお励ましによって、会務が恙なく進展しておりますことを深く感謝致す次第です。

いつも気にかけている会員増強も少しずつではあります。増加傾向にあり、近年はとくに全国各地から若い会員の入会も多く、誠に心強く喜ばしいことです。

日本における女医の全医師に対する比率もようやく一〇・八％に達し、なお、増加傾向にあります。女医に求められる仕事も拡大しております。大半を占める開業、勤務の臨床医も、また、研究者、教育者、公衆衛生医、

行政官などすでにそれぞれの分野で業績をあげていますが、将来に向かつてさらに大きな期待が寄せられていと考えます。

二十一世紀に向けての多くの問題、たとえば、(1)超高齢化社会の到来、(2)合計特殊出生率一・五七が考えざる問題、(3)出生数の減少にもかかわらず、先天性異常による新生児及び乳児の死亡率の増加、当然そこから推測される先天性異常の増加、(4)タバコ、アルコールなど、(5)思春期と更年期の問題、等々、女医が取り組むにふさわしい問題が多々あります。こうした問題の教育、啓蒙に関わっていくことは社会的意義も大です。もちろんそのためには、より多くを学習する必要があります。定款第二章、目的及び事業の第四条、第五条に、具体的にうたわれている通りです。各支部が、あるいは、支部本部が、共同プロジェクトとして実

施できることは大変望ましいことと思われまます。
去る十月十三日、徳島支部のご協力と、徳島新聞社、四国放送、徳島女性協議会、国際ソロプチミスト徳島、阿南、鳴門のご後援により、共生の時代に送るメッセージの公開講演会を開かせていただき、大変盛会でした。上村徳島支部長はじめ、支部の皆様には格別のご協力をいただき有難く感謝しております。
恒例の研修会が十一月十七日京王プラザホテルで開かれました。講師は、吉岡弥生賞受賞のお二人で、橋本葉子先生の「色を見分けるメカニズム」は大変興味深いご発表でしたし、早川律子先生の「接触皮膚炎」は、即、明日の診療に役立つものでした。研修の場を通して交流がさらに深まることを喜んでおります。惜しむらくは研修会がいつも東京で行なわれることで、将来地方で行なうことなども考えてみなければならぬと、いささか忸怩たるものがあります。将来への課題にしたいと思います。

私事で恐縮ですが、去る九月国際協力事業団(JICA)の派遣で、十七日間にわたって南米三カ国(ペルー、ブラジル、アルゼンチン)を視察してきました。アルゼンチンでの国際会議にひきつづき、再び赤道を往復、六万キロに及び一人旅をしてきました。きびしいスケジュールでしたが、アジア、アフリカとはまた違った、貧困、不況、人口問題、

もくじ

巻頭言.....	山崎 倫子 (1)
第十三回学術講演研修会 色を見分けるメカニズム.....	橋本 葉子 (2)
接触皮膚炎.....	早川 律子 (3)
第四回ワークショップ 超音波検査による肝細胞癌の早期診断.....	齋藤 明子 (4)
第九回学術研究助成研究経過報告 神経線維腫症患者由来細胞の遺伝子工学的解析.....	齊藤加代子・山内あけみ (5)
梅津隆子さんの叙勲を祝う.....	久保田くら (6)
支部だより 栃木支部だより.....	南里 栄子 (6)
鹿児島支部だより.....	長友由紀子 (6)
私の大学(福島県立医科大学).....	鈴木 ヒサ (7)
第36回日本女医学会定時総会のご案内.....	(3)
告示.....	(4)
学術記念講演会のお知らせ.....	(7)
日本女医学会ペンダント発売のお知らせ.....	(8)
平成元年度会員学位取得者一覧表.....	(9)
理事会議事録.....	(7)
会員動静.....	(10)
編集後記.....	(10)

教育、医療福祉などの実態をみて来ました。一筆では記せないさまざまなお思わくで混乱しています。しかし、医大卒業後日本で研修を受けた多くの日系男女医師が、三カ国の各地で活躍していることは、心強くまた誇らしく思いました。
赤道直下、アマゾン川が大西洋に注ぐデルタ地帯の南端、ベレーンでは、二十年以上も前に八年間も日

本女医学会本部に事務員として勤めていた山本(旧宮沢)紀子さん——今はお土産店の奥様に出会いました。皆さんにくれぐれもよろしくとのことでした。また、ブエノスアイレスでは、外務医務官として活躍の、東京女子医大の後輩、大田由起子先生にお会いするなど、世界が狭くなったことを実感しました。
さて、今年役員改選の年です。

表2 原因別接触皮膚炎

1. 植物皮膚炎
2. 食物皮膚炎
3. 動物皮膚炎
4. 日用品皮膚炎
5. 化粧品皮膚炎
6. 外用剤皮膚炎
7. 職業性皮膚炎

表1 接触皮膚炎の発症機序

1. 一次刺激性皮膚炎
急性毒性皮膚炎
慢性刺激性皮膚炎
2. 光毒性皮膚炎
3. アレルギー性皮膚炎
4. 光アレルギー性皮膚炎
5. 接触蕁麻疹
6. 全身接触型皮膚炎

われわれは色が見えるということに関して何の疑問も抱かないで生活しているが、そのメカニズムは非常に複雑なものであり、現在でも詳細な信号伝達様式および機能構築は完全には解明されてはいない。

接触皮膚炎

接触皮膚炎は化学物質が皮膚に接触して発症する皮膚の炎症で、その発症メカニズムにより以下のように分類される。

一、一次刺激性皮膚炎

接触した物質の刺激が皮膚の抵抗閾値をこえた場合には誰にでも生ずる。一回の接触で発症するのを急性毒性皮膚炎、弱い刺激が繰り返して皮膚炎を生ずるのを慢性刺激性皮膚炎と云う。急性毒性皮膚炎は発症が急激で灼熱感や疼痛を伴い、物質が接触した部位に局限して炎症が生ずるため、患者本人が原因物質をはずり指摘でき、原因物質をオリーブオイルで洗い流すと刺激反応が見られる。慢性刺激性皮膚炎では軽い痛み、痒みをとらなるとして紅斑、落屑、異常乾燥などが見られる。原因物質をパッチテストしても陽性反応は見られない。

名古屋大学医学部附属病院
分院皮膚科
早川 律子

二、光毒性皮膚炎

光毒性物質が皮膚に付着し、その部位に光の照射を受けると発症する。症状は軽い炎症と炎症後の色素沈着が特徴である。炎症症状が軽度のため、色素沈着が生じてはじめて気がつくことが多い。色素沈着は半年から一年ぐらいはこる。この現象は充分な光毒性物質の接触と充分な光照射量があれば誰にでも起こる。

三、アレルギー性皮膚炎

誰にでも起こる現象ではなく、ある物質に感作されている人が、その物質に触れると発症する。発症しやすい物質、発症しやすい体質がある。はじめて接触した物質ではアレルギー

五月二十五日、土曜日はぜひ今から予定しておいて下さるようお願い申し上げます。女医学会のますますの発展を願いつつ、重ねて会員皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

第十二回学術講演研修会

色を見分けるメカニズム

東京女子医科大学・第一生理学教室
橋本 葉子

色覚学説は一八〇七年に Young が、一八五二年に Helmholtz が三色説を、一八七八、一九二〇年に Hering が反対色説を提唱以来、心物理学的にはこの両者が平行して研究されてきた。色の弁別には、①分光感度の異なる受容細胞が少なくとも二種類以上存在すること、②網膜神経細胞から中枢神経細胞まで、波長により拮抗した応答様式で信号伝達が行なわれること、③高次中枢細胞が色を認識できること、が必要条件である。電気生理学的技術および顕微分光法の発達に伴い、網膜内の各種細胞の波長特性が同定できるようになった。

ヒトの色受容細胞である錐体には最大吸収波長の異なる三種類の視物質(青、緑、および赤感受性感光色素)が含まれていること(表1)が顕微分光学的に確認された(Dartnallら、一九八〇)。錐体視物質に光が吸収されると錐体の中で一連の光化学反応が起こり、電気的応答に変換される。ヒトと同様な視物質を含むコイ網膜錐体からは可視域の波長に対し、最大応答波長を異にする三種類の過分極性応答が得られ(Chichara、一九六七)、生理学的にも視細胞レベルでは三色説が成り立つことが実証された。

網膜水平細胞は、可視光全波長に対し過分極性に応答する単相性細胞、短波長に対して過分極し、長波長に対して脱分極する二相性細胞、短波長と長波長に対して過分極し、中間波長に対して脱分極する三相性細胞の三種類に分類される。これらは Hering の反対色説を基に Judd が心物理学的に求めたヒト分光感度曲線と良く似ていることから、水平細胞では反対色説が成立するものと考えられ、色情報伝達機構を説明するための研究指標とされてきた。二相性の長波長域および三相性の長波長と中間波長域の符号反転は、水平細胞→錐体への組織学的結合モデル(Stellwag、一九七五)を基に、二

表1 視物質に関する諸情報

視物質	視細胞	λmax(nm)	アミノ酸残基数	染色体番号	遺伝子座位
ロドプシン	桿体	496~498	348	3	q21-q24
青色感受性色素	青錐体	419~420	348	7	q22-qter
緑色感受性色素	緑錐体	530~534	364	X	q28
赤色感受性色素	赤錐体	558~564	364	X	q28

相性長波長域の符号変換は単相性から赤および緑錐体へ、γ-アミノ酪酸を伝達物質とするネガティブ・フィードバックによること、さらにグルタミン酸を伝達物質とするシナプスでは信号の極性が保たれること(Kane、一九八四)が確認となり、三色説から反対色説への転換は錐体と二次ニューロンの間の相互作用によること、二次ニューロンより上位へは反対色の色情報伝達が行なわれること、すなわち、分光感度の異なる錐体で受け取られた情報は、赤と緑、黄と青の要素の差の信号(一方が+)のときはその補色に対しては(−)となり、中核へ送られていくことが明らかになった。

V1野(17野)の神経細胞は光のスペクトル成分に対して反応選択性を有する色応答細胞であり、V4野(18、19野)の神経細胞は周囲の反射波長とは独立した色そのものを認知する色認識細胞である(Deki、一九八三)。中核ではこれら反応選択性を持った細胞が柱状に構築されている。

一方、遺伝子解析が急速に進展し、一九八六年には赤および緑視物質は

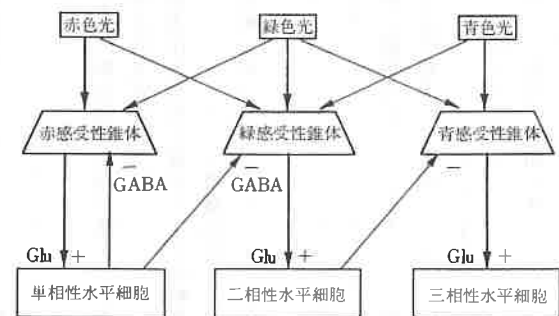


図1 三色型から反対色型応答への転換機構

網膜外網状層のシナプス結合を示すモデル。矢印はシナプスの存在とその信号伝達方向を示す。(+)はそのシナプスで信号の極性が保たれる符号。(−)は信号の極性が反転するシナプス。矢印の太さは影響の強さを示す。Glu:グルタミン酸 GABA: γ-アミノ酪酸

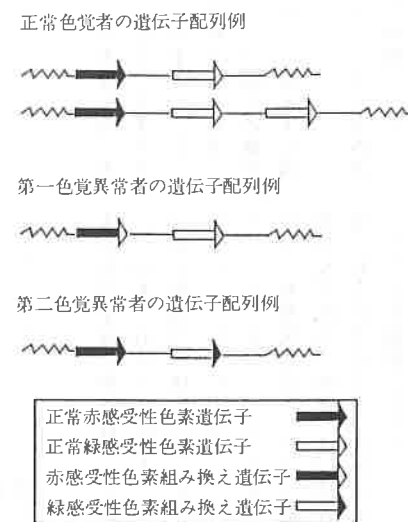


図2 色覚に関する遺伝子配列の模式図

社団法人日本女医学会第三十六回定時総会のお知らせ

新しい年を迎え、諸先生方にはお変わりもなく、ご活躍のこととお慶び申し上げます。

第三十六回日本女医学会定時総会は、東京において左記の日程のように開催いたします。なにとぞ、皆様お誘い合わせの上、多数のご参加をお待ち申し上げます。

なお、評議員会、総会、懇親会以外は東京都支部連合会の企画によります。

日時 平成3年5月25日(土)
場所 京王プラザホテル

〒160 東京都新宿区西新宿二二二
電話 〇三三三四四〇一一

評議員会 午後3時~3時45分
総会 午後4時~6時30分
懇親会 午後7時~8時
登録費 三、〇〇〇円
会費 一〇、〇〇〇円

※評議員および予備評議員の改選

定款施行細則第二十六条により各支部において、評議員一名、予備評議員一名(再任可)を選出され、平成3年3月末日までに本部にお届け下さい。

なお、新評議員および新予備評議員の任期は、平成3年4月1日から平成6年3月31日となります。

5月24日(金)

〔Aコース〕五月場所相撲観戦
*両国技館にて午後随時、五月場所好取り組の真剣勝負の醍醐味をマス席にて会食しながら観戦。またお土産もつきます。

*マス席先着20名 費用三〇、〇〇〇円位。

5月25日(土)

*先着30名、費用一五、〇〇〇円位

〔朝食会〕

*朝のすがすがしいひとときを、ご歓談しながらのお食事をどうぞ。ホテルに宿泊なさらない方もぜひご参加下さい。

*費用三、〇〇〇円

〔Cコース〕美術館めぐり

*朝食会後、午後2時までの間、昼食つきの美術館めぐりはいかがでしょうか。ご希望のある方には、後日詳細をお知らせいたします。(費用未定)

5月26日(日)

〔Dコース〕昼の部 歌舞伎座

*午前11時開演、団菊祭、昼食つき

*先着50名 費用一五、〇〇〇円位

準備の都合上、出欠のご返事は2月末までお願いいたします。ご出席の方には、後日あらためて、詳細をご案内申し上げます。

・ご出席人数により、多少変更があるかもしれません。ご承知下さい。

・25日(土)午後、お茶席の用意をいたしまして、皆様のお越しをお待ち申し上げます。

社団法人日本女医学会
東京都支部連合会

性接触皮膚炎は発症しない。症状は物質の付着した部位に限局せず周辺に拡大する傾向があり、強い痒みと紅斑、浮腫、丘疹、小水疱などの多彩な皮疹の形態をとり時間の経過とともに炎症部位がしだいに広がる。この傾向は植物皮膚炎で特に著しい。原因物質はパッチテストで紅斑、浮腫、小水疱などの陽性反応を示す。免疫学的に類似した化学構造を有する物質間で交差反応が生じて、接触した物質が感作物質と異なる場合でもアレルギー反応を惹起する場合があり、パッチテスト陽性反応のみでは真の感作物質を断定できない。

て全身の皮膚に散布され、全身に皮膚炎を惹起する現象。接触皮膚炎を起こす原因には植物、食物、動物、金属、化粧品、外用剤、日用品、家庭用品、職業で扱う化学物質などがある。すなわち皮膚に接するものすべてが原因となりうる。

第四回ワークショップ

超音波検査による肝細胞癌の早期診断



東京女子医科大学
消化器病センター内科
斎藤 明子

肝臓の超音波診断

(1)どのくらいの大きさで発見が可能か？

肝細胞癌切除例の肝内転移巣で検討すると、5mm以下では一％であるのに対し、6mm以上になると七％の描出率が得られている。したがって6mm以上の病巣になると超音波検査で充分発見が可能である。

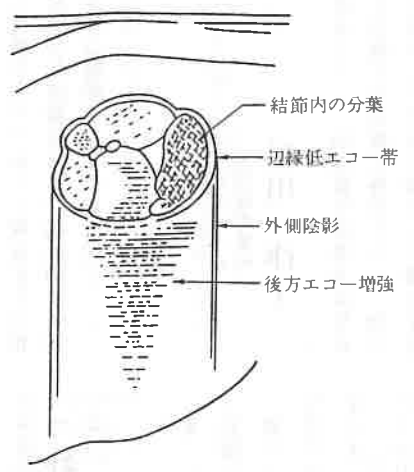


図1
結節内の分葉
辺縁低エコー帯
外側陰影
後方エコー増強

○〜四〇％高くなる。
*超音波ガイド下腫瘍生検法—21G針で吸引生検を行う。細い生検針を用

(2)肝細胞癌の特徴的な所見は？
わが国で最も多い結節型の特徴は図1のごとくである。

(3)超音波検査を用いた精検法
*アンジオエコー法—われわれの開発した腫瘍のエンハンス法。血管造影に引き続いて少量の炭酸ガスを肝動脈内に直接注入し超音波検査を行う。おのおの腫瘍でエンハンス像の形態や、消退時間が異なるため、肝細胞癌と他の結節との鑑別が容易である。また、小病巣の診断率は通常の超音波検査に比べて、三〇〜四〇％高くなる。

告示

日本女医学会定款第二十四条に基づき、来る五月二十五日(土)京王プラザホテルにおいて、平成二年度定時総会を開催いたします。同時に第十五条の規定により現役員任期満了に伴う役員選挙を行います。

なお、立候補の届出は、定款施行規則第十九条により、平成三年三月二十六日日本部に必着を厳守願います。

選挙に関する定款および定款施行規則の抜萃

- 定款第十四条 理事三十名以上三十五名以内 (内会長一名、副会長三名、常任理事十二名) 監事三名
 - 定款施行規則第七条 選挙人は、選挙の九十日前までの正会員とする。被選挙人は、入会後三年経たず正会員とし、会費完納者とする。
 - 定款施行規則第十九条 立候補者は、選挙の告示があった日から選挙の日の六十日前までに立候補届を文書で理事会に届出なければならぬ。
- 届出書類 (一) 立候補届 (二) 規定の履歴書
- 立候補届出に関する書類は、本部にあります。お申し込み次第お送りいたします。立候補は、自薦のみです。

い超音波画像上で腫瘍を確認しながら行なうため、出血などの合併症が少ない。

早期発見するためには

(1)外来診療の場合
初診時に肝機能障害、HBs 抗原陽性、輸血の既往、家族歴(肝疾患、HBs 抗原陽性)のみられる患者は必ず超音波検査で肝の状態や肝臓の合併の有無を検査する。また慢性肝疾患患者に対しては定期的超音波検査(三〜六ヵ月毎)を欠かさないとが大切である。

(2)集団検診にて

われわれは過去七年間、鹿児島県沖永良部島の肝臓集検を行なってきた。住民検診受診者の中から肝疾患を拾い上げるため、GOT>30 または CHE>0.6 または HBAg(+) に該当する者を選び、超音波検査を行なった。この結果、胃癌検診に匹敵する肝癌発見率が得られた。いずれも3cm以下の小肝癌であった。

肝細胞癌最近の話題

早期肝癌について

肝臓の分野では、未だ早期癌の取り決めはないが、最近の診断法の進歩で2cm以下の肝癌切除例が増えるにしたがって、その臨床病理的特徴が明らかになりつつある。病理組織では、被膜を持たないことが多く、結節内には門脈域が残存し、細胞異型構造異型ともに軽度である。良性結節との鑑別が困難なこともあるが、われわれは細胞異型は軽度であっても残存する門脈域に浸潤している像

(グリーン浸潤)がみられることが、診断上二つの手がかりとなることを

第九回学術研究助成研究経過報告

神経線維腫症患者由来細胞の遺伝子工学的解析

東京女子医科大学小児科
齊藤加代子
山内あけみ

はじめに

近年の神経線維腫症(以下NF)の遺伝子研究の進歩は著しく、従来末梢型、中枢型と臨床像から鑑別されてきた二タイプのNFはおの的病因遺伝子が異なり、前者は染色体17番q11.2に、後者は染色体22番に存在し、この二タイプの疾患は独立した疾患と確認された。この二タイプの他にもいくつかの病像を独立させて考える研究もあり、現在は、その他のタイプとして扱われている。

われわれは当科で診療にあたったことのあるNF患者について遺伝子学的解析を試みた。

方法と結果

(1)NFは、元来、一疾患単位として扱われてきたため、従来の診断をそのまま踏襲するのは適切でない。また、NF1の多くの症状は年齢とともに出現してくるため、より正確な診断をつけるには、長期に渉り経

過を観察する必要がある。本研究を始めるに当たり、まず、各症例が現在提唱されているNF1及び2の診断基準(NIH Consensus Conference Statement 一九八七)に照らし合わせて、NFのどのタイプと診断されるかの見直しから着手した。

当科外来においてNFと診断された八十例全例に再度来院を呼びかけ、来院の不可能な例に関しては、電話で保護者からの情報聴取を行ない、また、カルテの記載も参考にしタイプ分類を行なった。結果を図1に示す。四七・五％の症例はNF1(von Recklinghausen 病)と診断された。一・三％の症例はNF2と診断された。三二・三％の症例ではNF1疑い(皮膚のカフェオレ斑が六個以上認められたのみであるが、年齢が高くなるに連れ、虹彩結節や、神経線維腫が出現する可能性もあり一層綿密に経過を追う必要がある。また二・三・八％の症例では(分類不

能NF)、カフェオレ斑が六個以下認められただけであった。NF2の症例では通常カフェオレ斑の数は少なく、両側性聴神経腫瘍は二十歳以上で出現することが多いため、今後NF1、NF2いずれの可能性も考えて経過を追う必要がある。三・八％の症例は、その他のNFに分類された。

(2)上記の分類により、明確にNF1と診断された例のうち、親子二代以上に渡りNF1を発症している遺伝家系を四家系選んで検査することとした。まず、家族全員をヘパリン採血し、モノポリ分離溶液を用い全血から分離したリソソームに蛋白質分解酵素、及びRNA分解酵素を用い高分子DNAを調整した。この高分子DNAを制限酵素(Bgl II, EcoR I, Hind III, etc)を用い三十七度の恒温水中で切断した。さらにアガロースゲル電気泳動により、DNAを分子量順にゲル上に配置し Southern プロブテイングを行ない、ニトロセルロースフィルターにDNAを乗せる。

一方、American Type Culture Collection から購入した乾燥大腸菌に入った cDNA(β Crystallin, c-erbA1, c-erbB2, Tumor protein P53, PHH202)を三十七度恒温水中で一晩培養し、増殖させ、大腸菌からベクター、ベクターからcDNA自身を取り出すという段階を経

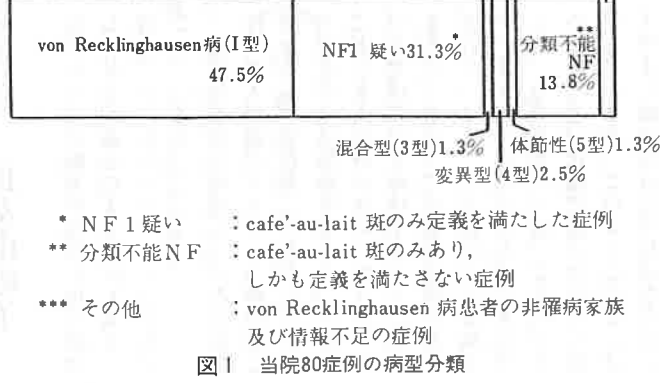


図1 当院80症例の病型分類

- * NF1疑い : cafe'-au-lait 斑のみ定義を満たした症例
- ** 分類不能NF : cafe'-au-lait 斑のみあり、しかも定義を満たさない症例
- *** その他 : von Recklinghausen 病患者の非罹病家族及び情報不足の症例

て、プローブとして調整した。プローブを32Pでラベルし、ハイブリタイズーション、オートラジオグラフィを行なったが、現在満足すべきオートラジオグラフィを得るに至っていない。今後は RFLPs 解析を行なう方針であるが、この方法は、DNA上で、プローブが認識するバンドの大きさが、病変遺伝子を持つパターンが異なることを利用して診断に役立てる方法である。このためにはさらに実験方法を的確にすると同時に、症例数も増やしていくつもりである。

おわりに

近年のNF1、NF2に関する遺伝子工学的データはおもに欧米における研究に基づくものである。これは概ね日本人にもあてはまり、NF1の病因遺伝子は染色体17番にあると推測される。しかし、その解析にあつては、遺伝子構成の民族特異性があり、欧米での研究方法やデータをそのまま取り入れることはできない。日本人におけるNFの遺伝学的解析を確立するため、今後このテーマを進めて行きたい。



会員梅津隆子さんの叙勲を祝う

東女医内支部 久保田くら

会員梅津隆子さんが平成二十一年三月三日、文化の日に秋の叙勲で勲四等瑞宝章を受章されました。まことにめでたいこととございます。梅津さんは現在東京女子医大の名譽教授であり、社団法人至誠会の監事であります。昭和五十八年三月東京女子医大を定年退職後も、なお新宿の石川病院の名譽院長として患者をみておられます。梅津さんは昭和十四年三月東京女子医専をご卒業、ただちに母校の皮膚泌尿器科学教室に入室し、田村一教授の指導をうけられました。その後、田村教授が慶応義塾に転出された後は中村敏郎教授の指導をうけられました。やがて泌尿器を独立科とする医学

年精神科、リハビリの知識と技術を備えた医師が今後必要とされると思えます。このことで日本女医学会を通じて何かお役に立てることがあれば幸に存じます。年明け早々堅苦しいおたよりとなりましたが、ともかくこの一年会員の皆様がお元気で活躍されることを希望しております。

支部だより

栃木支部だより

栃木支部 南里 栄子

日頃、本部から国際女医学会並びに日本女医学会との交流、動静などを詳細にお知らせいただき厚く御礼申し上げます。栃木県は北関東に属し、北は那須日光連山に囲まれ、日光東照宮や多数の温泉等の観光地を有し、南は足利学校で有名な足利市までに達し、人口百九十四万人の歴史的に天災地変のない住みよい地方です。日本女医学会員は六十名。大学関係者以外は開業医です。四十歳までで五〇%、平均年齢五十三歳、内小児科、耳鼻科、眼科、産婦人科、皮膚科、麻酔科の順に多く、上限は八十歳すぎまでなお繁華として地域住民の信用を得ながら医療に従事しています。県内には十七、八年前に協同医大、自治医大が開校され、二つの大学の研究者に、本部から優秀な女医としての名譽と研究助成金をいただいている方が何人かおられます。栃木女医学会も共にあり表裏一体、ほとんどの会員も同一で運営されて、年に一回の総会の後では、教授並びに若い教職員によって研究の発表を伺い、耳目を新たにしております。昨年五月にも自治医大柳沢正義教授に

鹿兒島支部だより

鹿兒島支部 長友由紀子

明けましておめでとうございます。南国鹿兒島からの支部だよりを平成三年一月に掲載できうれしく思います。昨年は「翔ぶが如く」で全国的に注目された？わが県ですが、支部会員数は十名足らずで翔ぶが如くとは言えないようです。さて、昨年十月の本誌後記に女医の高齢化について書かれてありました。わが支部の先生方の中にも八十歳を越えられる方もおられ、さらに鹿兒島県は全国的にみましても、七十歳以上の高齢者の比率は高く、老人問題も深刻なものがあります。中央から地理的にも離れており、子供は都会へ、田舎には老いた親だけというケースも少なくありません。病

私の大学 「福島県立医科大学」

福島支部 鈴木 ヒサ

福島県立医科大学は、昭和十九年時局に沿って女医の養成を目的として設立された、福島女子医学専門学校を母体として、戦後の昭和二十二年に開学されました。しかしその前身を尋ねると、福島県の医学教育は、遠く明治初年の須賀川医学学校や、その後の福島医学学校まで遡ることができます。

プール等はいずれも国際競技の公式戦ができる規模を備えております。大学や病院も最新の設備を誇り、平成元年には神経内科、心臓血管外科の講座も新設され、教養学部を含め三十六講座となり、教授陣も充実し、多くの研究者を育てております。本学の卒業生はすでに二千名をこえ、卒業生からの教授もふえてきました。大学の研究室で、また県内の病院の勤務医として、そして開業医として各地で活躍しております。今年二期目の再選をはたされました。伊藤司学長も本学出身で、本学初の学長として大学移転を含めて県民医療のため、学生教育のために活躍されております。医の倫理と人間愛に基づいた医師を育てることを目標とされ、最新の医学知識と技術を身につけさせるとともに、専門知識に固執せず、広い視野に立った医師を育て、そして従来の詰め込み主義でなく、学生が自らの意欲で勉強し、問題を解決していけるような教育をしたいと述べられ、また患者の苦しみ、悩みを自分のものとして受け取ることができるよう質のよい医師の養成を望んでおられます。

理事会議事録

日時 平成2年9月22日
場所 日本女医学会会館
出席者 大原、小俣、佐藤、石原、久保田、佐野、白橋、野沢、橋川、橋本、藤井、丸山、三好、青井、明石、荒木、石川、石津、稲生、小暮、柴田、白浜、関口、中濱、南雲、野呂、平瀬、森田、八木、添田、西山
欠席者 山崎、二村、野本、尾中、小出、福永、山口
庶務報告 南雲理事
7月28日・常任理事会、第四回ワークショップを東京女子医科大学臨床講堂において開催(出席者六〇名)。
8月3日・全会員に日本女医学会誌一二三三三、年金パンフレット、年金申込書、ルーペンタンパンフレット、会費請求書発送。

学術記念講演会のお知らせ

日本で発見された疾患の中から

日時 平成3年3月30日(土)午後2～5時
場所 東京女子医大 弥生記念講堂
東京都新宿区河田町8-1

- (1)川崎病 川崎 富作 (日本心臓財団川崎病原因究明対策委員会 川崎病研究情報センター所長)
- (2)ATL(成人T細胞白血病)との出会いとその後の展開 高月 清 (熊本大学医学部第二内科教授)
- (3)筋ホスホフルクトキナーゼ欠損症 発見から変異遺伝子の同定まで 垂井清一郎 (大阪大学医学部第二内科教授)
- (4)び慢性汎細気管支炎 滝沢 敬夫 (東京女子医大第一内科教授)
- (5)先天性進行性筋ジストロフィー症(福山型)について 福山 幸夫 (東京女子医大小児科教授)
- (6)インスリン自己免疫症候群 平田 幸正 (東京女子医大第三内科教授)

主催/東京女子医大糖尿病センター
TEL(三三五)三三三三(八一一)
会費/不要
世話人/大森安恵・植田太郎

加入することに決定。
 (5) Dr. Fe Del Mund 歓迎会(12月)について
 Dr. Fe Del Mund 歓迎会(12月)について
 元国際女医学会長が来日される予定になっているが、正式の連絡を受けたのち歓迎会を行なうこととする。

副会長(庶務担当) 佐藤 以上
 庶務部 白橋、三好、荒木、南雲、八木

出席者
 山崎、大原、小俣、佐藤、石原、白橋、二村、野沢、野本、橋川、橋本、藤井、丸山、三好、青井、石川、石津、稲生、小出、小暮、柴田、白浜、中濱、南雲、野呂、平瀬、八木、添田、西山

欠席者
 久保田、佐野、明石、荒木、尾中、関口、福永、森田、山口

庶務報告
 10月27日・常任理事会開催。
 11月5日・国際婦人年連絡会平和・国際協力ユニファム委員会に佐野常任理事出席。
 11月10日・国際婦人年連絡会全体

平成元年度日本女医学会会員学位取得者一覧表 (学術部) 平成2年12月10日

全国医科大学80校に調査依頼し55校より回答あり、結果301名の学位取得者中10名の既会員がおり、会員外で住所判明の291名に入会のお誘いをし、14名の入会あり。

支部	氏名	出身校	卒年	論文名
秋田	西野 京子	秋田大医	S54	オピオイドの脊髄クモ膜下腔持続注入による耐性とレセプターの down regulation
岩手	滝川佐波子	山形大医	S61	慢性肝疾患および血清中の亜鉛、銅、セレン、マンガンの変動
宮城	斎藤 和子	東北大医	S50	糖尿病性細小血管症の発症と予後に関する好中球コラゲナーゼ活性の意義
〃	笹川 尚子	富山医薬大医	S59	抗イディオタイプ抗体——ネオカルチノスタチンによる自己免疫病マウスの治療
埼玉	角 ゆかり	東女医大	S57	prolactin の生物学的活性と卵巣機能の相関に関する研究
〃	田口夕美子	東京医大	S59	初回病理診断で分類不能とされた炎症性腸疾患の臨床病理学的再検討
〃	多田羅裕子	東女医大	S50	小児期の最終身長予測に関する研究 第1編 日本人小児の最終身長予測式について 第2編 日本人小児の最終身長予測式の実用性について 第3編 成長障害のある症例に対する応用
栃木	大塚美恵子	秋田大医	S56	ミトコンドリアアミオパチーの患者の骨格筋から分離したミトコンドリアは比重が重い
〃	長場安紀子	独協医大	S53	アミロイド沈着がみられた friction melanosis の6例並びにアンケート調査による friction melanosis の頻度
〃	新島 純子	日本医大	S49	赤血球膜コレステロール含量に対する血漿高比重リポ蛋白コレステロール低下の影響
千葉	日比野久美子	慶大 医	S57	牛水晶体 αクリスタリンの加齢変化に関する一考察——トリプトファン残基の微環境の変化について——
杉並	萩原万里子	日本医大	S57	血管性痴呆の鑑別診断と重症度判定におけるCT及びMRI 梗塞巣有用性について
東女医学内	中地 愛	東女医大	S63	中脳背側症候群の眼症状の発現機序と病巣に関する研究
都下西	広瀬はるみ	東女医大	S55	肝硬変症における胃粘膜攻撃因子に関する検討
神奈川	岡田 卓子	横浜市大医	S59	各種抗CEA (Carcinoembryonic Antigen) 抗体による大腸癌の原発巣および転移巣の免疫組織学的比較検討
〃	清藤 乙美	慶大 医	S56	Cキナーゼ阻害薬スタウロスポリンの抗腫瘍プロモーション作用に関する研究
静岡	新島千賀子	東女医大	S53	小児における遠視の屈折要素について
愛知	岩塚 和子	三重大医	S56	頭蓋頸椎移行部奇形の神経科学的研究
〃	館山 祐子	藤田学園大医	S58	体外受精・胚移植における受精能及び初期胚発生に関する検討
長野	藤巻わかえ	東女医大	S55	チアノーゼ性先天性心疾患児における免疫異常 第1編 多核白血球走化能について 第2編 リンパ球サブセットについて
大阪6	藤村 和子	関西医大	S59	ラット実験潰瘍とPAF (platelet-activating factor、血小板活性化因子) 胃内在性PAFの動態とPAF拮抗剤の効果
広島	山下真理子	東女医大	S49	中耳および耳管の形態学的研究
徳島	吉田ひとみ	東邦大医	S58	筋緊張性ジストロフィー症における副甲状腺ホルモン調節機構の異常に関する研究
沖縄	加世田ゆみ子	九大 医	S57	脳弓切断ラットにおける海馬高親和性コリン取り込みの中隔野細胞移植後の変化

(敬称略)

8月25日・北海道支部総会に白浜、関口両理事出席。
 8月29日・31日・第四回西太平洋地域国際女医学会議オー・ストラリア・プリズベーンで開催(アイシーエス企画より二名、その他阪急グループよりの出席あり)。
 9月10日・国際婦人年連絡会平和・国際協力ユニファム委員会に佐野常任理事出席。
 9月20日・鹿児島、岡山および愛媛支部へ台風一九号集中豪雨の見舞い電報を打つ。
 9月21日・第四回国際総会政府代表代理江尻美穂子氏 贈送会に佐野常任理事出席。
 その他
 (1) 医師国家試験合格者および学位取得者へ当会入会のお誘い状発送(国家試験合格者九七四名、学位取得者二八一名)
 (2) 故牧 甫先生ご遺族より香典の礼状あり。

各部報告
 (広報部) 稲生理事
 ・9月10日、広報部会開催。
 (事業部) 白浜理事
 ・8月25日、北海道支部総会に白浜、関口両理事が出席。
 ・公開講演会開催について
 日 時 平成2年10月13日(土)
 午後1時30分〜4時
 場 所 徳島県郷土文化会館
 演題および演者
 「幸福に生きるために」 松本文絵
 「豊かな老後のために」 山崎倫子
 (学術部) 橋本常任理事
 ・7月28日、ワークショップを東京女子医科大学臨床講義室において開催(六〇名出席)
 ・8月14日、学術部会開催。
 ・第一三回学術講演研修会について
 日 時 平成2年11月17日(土)
 午後3時30分
 場 所 京王プラザホテル
 吉岡弥生賞受賞者講演
 演者および演題
 「色を見分けるメカニズム」 橋本葉子
 「接触皮膚炎」 早川律子
 (渉外部) 佐野常任理事
 ・9月10日・9月20日、国際婦人年連絡会平和・国際協力ユニファム委員会出席。委員会において寄付協力依頼のパンフレット作成中。
 ・9月21日、第四回国際総会政府代表代理江尻美穂子氏贈送会に出

席。
 (国際女医学会) 藤井国際連絡書記
 ・第四回国際女医学会西太平洋地域会議報告
 ① 第五回国際女医学会西太平洋地域会議は、一九九三年日本で開催と決定。
 ② 副会長にDr.クワン(フィリピン)選出。
 ③ 西太平洋地域分科会は、オーストラリア、ニュージーランドから分割の取り消し案が提出され現状通りと決定。

議事
 一、平成3年総会について
 日 時 平成3年5月25日(土)
 場 所 京王プラザホテル
 日程
 評議員会 午後3時〜4時
 選挙・総会 午後4時〜6時30分
 懇親会 午後7時〜8時
 二、外国人留学生受け入れについて
 学術部から提出された案について検討、継続審議とする。
 三、その他
 (1) 「小野春生および友人のファン ド」について
 小野春生先生よりの五〇万円の寄付について、ご要望のあった新ファンド設置も含め検討した結果、新ファンド口を新設しない。しかし小野先生のご意志を尊重し有意義な使途を考慮することとし小野先生にその旨伝える。
 (2) 北海道拓殖銀行との年金掛金自

日本女医学会ペンダント好評発売

かねて会員の皆様からご要望のございました日本女医学会ペンダントを発売いたしております。
 国際女医学会、日本女医学会本部の会合にはもちろんですが、日常にも素晴らしいアクセサリとしてお使いいただける品でございます。
 ぜひ全会員の皆様にご愛用いただきたく存じます。なお、在庫に限りがございますのでお早くお申し込み下さい。

・18金製の無垢
 直径二〇mm、厚さ一・二mm、重量八グラム
 価格 三三三、〇〇〇円(着払いで結構です)
 ・お申し込みは 日本女医学会宛
 電話(〇三三四九八八〇五七)または葉書で
 お願いいたします。



(表)



(裏)

動引落取扱いについて
 自動引落取扱いについて今後銀行との話し合いを承諾する。
 (3) 事務所冷暖房機故障について
 三菱重工冷熱サービス(株)にエアコン入れ替え工事を依頼。見積総額 五九八、七三九
 (4) 塚本久美子事務職員中退金加入

その他

(1) 故飯田安江先生ご遺族より香典の礼状あり。

(2) 青山宮野ビル管理組合長宮野重夫氏死去に対し香典を供す。

青井理事
承認

10月分収支別紙どおり報告。

各部報告
野沢常任理事

(渉外部)
12月7日、内閣総理大臣官房内政審議室婦人問題担当室より西暦二〇〇〇年に向けての全国会議の開催について案内あり。

本日、一九九〇年民間女性会議に佐野常任理事出席。

(広報部)
小暮理事

日本女医学会誌一二四号を11月15日発送。

「続日本女医史」年表事項について検討中。

(事業部)
石原常任理事

10月13日、徳島県郷土文化会館において公開講演会開催。

(学術部)
藤井常任理事

次年度のワークショップおよび学術講演会を検討中。

(国際女医学会) 藤井国際連絡書記

・アイルランドのマッキーニーさんより平成3年4月8日から21日までの間、中国において女医の交流会開催の提案あり、日本からもぜひ出席してほしい旨お誘いあり。

議事

一、役員選挙告示示について別紙のとおり決定。
二、社会保険新報出版の日本女医学会監修本発行について
今回のテーマは「お年よりの生きがい健康シリーズ」。前回同様原稿執筆に協力する。原稿料について問合せする。
三、その他
(1) 吉岡弥生賞、荻野吟子賞候補者推薦依頼(支部長)について
吉岡弥生賞、荻野吟子賞の候補者推薦と評議員、予備評議員選出依頼を文書にて依頼。
(2) 1月理事会および新年会について
日時 平成3年1月26日(土)
場所 京王プラザホテル
理事会 午後4時
新年会 午後5時30分
中華料理
(3) 「小野春生および友人のファンド」について
小野春生先生よりの五〇万円の寄付について、ご要望のあった新ファンド設置も含め検討した結果、新ファンド口を新設しないこととする。小野先生のご意志を尊重し五〇万円を返金し改めてご本人より国際女医学会本部へ寄付していただくこととする。
(4) 職員冬期ボーナスについて
二・七カ月分支給。

ルノブイリ原発事故による放射能被災の子ども達への救援募金依頼あり。以上
副会長(庶務担当) 佐藤 庶務部 白橋、三好、南雲、八木
評議員(敬称略)
静岡支部 村松みさ
予備評議員(敬称略)
静岡支部 村上さだ子
入会会員(敬称略)
北海道支部 岩永未知代
富樫 芳
岩手支部 滝川佐波子
宮城支部 笹川尚子
群馬支部 大原 緑 木村祥子
貴船 薫 鈴木 弓
須田澄香 古川雅子
埼玉支部 萩原マチ 原本 泉
村田 郁
栃木支部 大塚美恵子 新島純子
千葉支部 日比野久美子
板橋支部 竹内宏恵
新宿支部 田中美穂 母里珠美
千代田支部 萩原万里子
東女医学内支部 佐久間 泉
中地 愛
都下西支部 大塚貞子
広瀬はるみ
神奈川支部 岡田貞子 清藤乙美
野末悦子
愛知支部 藤原奈佳子 藤村和代
石川支部 内山 薫
兵庫支部 藤田幸子

会員動静

岡山支部 門田正枝
山口支部 篠山理香
徳島支部 佐藤七三子
吉田ひとみ
福岡支部 重松美加
沖繩支部 加世田ゆみ子
新卒入会会員(敬称略)
北海道支部 岸本葉子
青森支部 沢田弘美
岩手支部 山屋理恵
群馬支部 岩切玉代 岸 博子
埼玉支部 菊地愛子
栃木支部 柏瀬由佳 鷹皆徳子
吉田理香
千葉支部 榎本靖子 古川崇子
八田真理子
葛飾支部 軍神香美

集記

編後

世紀末十年の幕明けは湾岸危機ではじまり一月十三日現在なお戦争か平和かの分れ目である。とことんねばり強く交渉を願うのみ。ソ連ではリトアニアへ軍隊が出動する。このような世界状況には誰しも無関心ではいられない今日この頃である。
本号はエネルギーシユな会長の巻頭言にはじまり、学術講演研修会の二先生の研究発表、栃木・鹿児島支部だよりはよかった。梅津先生には心から御祝詞を申し上げたい。
出生率一・五七は各方面で大あわて、日本の将来にも由々しき問題と
思う。また超高齢化社会の事も大問
品川支部 大村美弥子
渋谷支部 原田亜紀子
新宿支部 榎田聖子
練馬支部 竹田和代
目黒支部 得本真理
東女医学内支部 浅間 恵
神奈川支部 佐藤友香 庄司知香
長野支部 平出仁美
奈良支部 平沢昌子
大阪七支部 秋岡成美
岡山支部 千葉谷子
広島支部 松本真由美
香川支部 水原宏美
福岡支部 江島真理
鹿児島支部 菅原尚美
物故者(敬称略)
愛知支部 飯田安江
題である。私は一月四日岩波ホールにて「安心して老いるために」の映画をみて来たが切実に思いを新にした。施設の絶対数が不足、一人で看護する人数はテンマーク他では二人以下なるも日本では四人以上との事。
稲生 襄
平成3年1月20日 印刷
平成3年1月25日 発行
編集人 久保 田 くら
発行人 日 本 女 医 会
発行所 東京都渋谷区渋谷2-8-7 青山宮野ビル
社団法人 日本女医学会
☎三九九八-〇五七一
制作 東京都文京区水道1-5-16
株式会社 金剛出版